日刊自動車新聞

発行所
日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門１丁目10番11号
電話 東京(03)5777－2351代表
©日刊自動車新聞社2024

5月8日
（水曜日）

各拠点の生産最適化へ

中国・統廃合、印で拡充、日本は自動化

市場環境に合わせ見直し

ＴＢＫ

商用車部品メーカーのＴＢＫが拠点ごとの生産最適化を急ぐ。競争が激化する中国では生産ラインを統廃合する検討に入ったほか、受注拡大を見込むインドでは生産体制を拡充する。少子化が進む日本では設備の内製比率や自動化率を高めたりする。市場環境に合わせて生産体制を機動的に見直し、収益を保ちたい考えだ。

まずは中国拠点のテコ入れを急ぐ。中国ではブレーキ関連部品など４つの製造拠点を持つ。稼働していない生産ラインの統廃合に着手するほか、生産ラインの自動化やロボットの新増設で省人化にも取り組み、人件費の削減も図る。尾方馨社長は「売り上げは下がっている。直近の半年、１年で増やせないのであればダウンサウジングしかない」と語った。合理化のほか、新分野への進出や、既存事業の縮小など、さまざまな選択肢を協議しているという。

一方、受注が好調なインドでは、生産品目や能力の拡大を計画している。現在はオイルポンプやウォーターポンプを製造しているが、今後、電動化製品などの生産も視野に入れる。一部の組み立てラインではロボットを導入して省人化にも取り組む。

日本では、ウォーターポンプやエンジン関連部品などを手がける福島工場（福島県玉川村）と鶴岡工場（山形県鶴岡市）を持つ。これまで、生産設備の製作やメンテナンスを主に外注していたが、今後はグループ全体で内製化を進める。２０１８年11月に買収した専用工作機械メーカー、サンテック（松野茂社長、浜松市中央区）のノウハウを活用し、古くなった既存設備を改修して加工精度などを回復させ、新たな機能も追加する「レトロフィット」を導入したり、ＴＢＫ専用の設備開発に生かしたりしていく。また、自動化の一環として導入したロボットや無人搬送車（ＡＧＶ）の稼働率も高める。昨年入会した「トヨタ生産方式」の自主勉強会「ＮＰＳ研究会」で得た好事例なども活用してさらなる改善に取り組む。

日本では内製比率や自動化率を高める（福島工場）

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

 ©日刊自動車新聞社　無断複製転載を禁じます。